

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 24 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520714

研究課題名（和文） 通信使と燕行使から見た日朝中三国の政治的・文化的位相

研究課題名（英文） Political and Cultural Particularities of Japan, Korea and China as Observed by Korean Envoys to Japan and Beijing

研究代表者

夫馬 進 (FUMA SUSUMU)

京都大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：10093303

研究成果の概要（和文）：

近代に入るまでの日本・朝鮮・中国三国の政治的・文化的位相を測る上で、キーパーソンとなるのは洪大容である。本研究期間に、洪大容が北京で筆談した時の記録『乾淨筆譚』の日本語訳を完成した。また洪大容の東アジア三国における歴史的位置について、日本・韓国・中国で研究報告をおこない、関係論文を公表した。

朝鮮国と琉球国との間で、何の敵対関係もないのに国交がなかったことを明らかにし、これをもとに日本・朝鮮・中国三国によって構成される独特な国際関係を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

Hong Tae-Yong (1731-83), an eighteenth-century Korean scholar, is a key figure in assessing the pre-Modern political and cultural particularities of Japan, Korea and China. Hong's record of his written "conversations" with Beijing-based Chinese scholars, entitled Brush Talks in Ganjing Alley, has been translated into Japanese by me. In addition, since 2010, I has published a number of research reports and papers on Hong's evaluation of the historical position of these three East Asian countries in Japan, Korea and China.

Although Korea and the Kingdom of Ryukyu did not have an adversarial relationship in Hong's day, the present research makes it clear that they also failed to develop diplomatic relations. This fact has considerable bearing on the peculiar international relations subsequently developed by Japan, Korea and China, as this research also makes clear.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・アジア史・アフリカ史

キーワード：通信使 燕行使 日本 朝鮮 中国

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 朝鮮通信使研究はこれまでであったが、朝鮮燕行使研究はこれまでほとんどなかった。

(2) もっぱら朝鮮通信使は、すぐれた朝鮮

の学術文化を日本へ伝えることがその意義であるかのごとく言われてきたが、18世紀前半に日本と朝鮮の学術的なまた文化的な位置が逆転した。従来の研究ではこれが明らかではなかった。

(3) 朝鮮の洪大容は韓国の中学や高校の歴史教科書でも必ず記されるような有名人であるが、彼に関わる文献研究はこれまでほとんどなされなかった。彼の北京での筆談記録『乾浄筆譚』は、韓国ですでに現代語訳があるが、誤りがありにも多く、かつ十分な注も付けられていなかった。

(4) 日本・朝鮮・中国の国際関係についても、これまで単純な朝貢システム(朝貢体制)や冊封体制で説明されるだけで、これでは朝鮮と琉球の二ヶ国の間において、なぜ国交がなかったのかも説明できなかった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は朝鮮通信使と朝鮮燕行使をいわば「方法」として用いることによって、三国の政治及び文化の位相を測り、これをより構造的に理解することにある。日本・朝鮮、日本・中国、朝鮮・中国二国間外交や二国間文化交流を超えて、三ヶ国における政治的文化的位相を測ることを目的とする。

## 3. 研究の方法

「研究の目的」で記したとおり、本研究では、通信使と燕行使を「方法」として用いた。より具体的には以下の通りである。

日本・朝鮮・中国の政治的文化的位相を測るために、朝鮮の通信使と燕行使に着目したが、中でも重要なのは洪大容の燕行である。というのは、1764年朝鮮通信使はその後、洪大容から始まる北学派に大きな影響を与えるからであって、したがって洪大容が両者をつなぐキーパーソンであるからである。彼の北京旅行記である『湛軒燕記』、その日記であるハングル本『乙丙燕行録』、さらに北京での筆談記録である『乾浄筆譚』に注目することによって、三国の政治的・文化的位相を測った。

## 4. 研究成果

本研究課題の主な研究成果は下記の通りである。

(1) 洪大容『乾浄筆譚』の日本語訳を完成した。この韓国語現代語訳は現存するが、本日本語訳はここにみえる極めて多くの誤りを正し、かつ詳細な注を付した。これは今後朝鮮燕行使と朝鮮通信使を研究する上での基礎になるであろうし、本年秋頃に出版されれば、韓国を初めとする世界に大きな影響を与えるであろう。

(2) 洪大容の『乾浄筆譚』を韓国ソウルのスンシル大学で発見した。これを2012年にソウルの檀国大学校で開かれたシンポジウムで発表するや、大きな驚きをもって迎えられ、関係論文が二つ韓国語にて翻訳された。また、これらの史料によって、洪大容の朝鮮帰国後の状況がはじめてわかるように

なった。

(3) 日本・朝鮮・中国の国際関係を琉球と朝鮮との関係を基に考察した。この成果は、本年6月に論文として公表される予定であるが、なぜ敵対関係にないはずの朝鮮琉球両国に国交がなかったのかを考察したことによって、これまでの「冊封体制」あるいは「朝貢システム」という図式を大きく越えるものとして、学界で注目を集めるであろうと考えられる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

(1) 夫馬進、洪大容『乾浄筆譚』とその改変、東アジア三国新しい未来の可能性、文芸苑、査読有、2012年、pp.169-198。

(2) 夫馬進、洪大容『乾浄筆譚』とその改変、漢文学報、査読有、第26輯、2012、pp.193-263。

(3) 夫馬進、明清時期中国对朝鮮外交中的“礼”与問罪、明史研究論叢、査読有、第10輯、2011、pp.283-304。

〔学会発表〕(計4件)

(1) 夫馬進、東アジア交流史上における朝鮮洪大容の北京旅行とその後、京都大学史学研究会大会、2012年年11月2日。

(2) 夫馬進、朝鮮洪大容『乾浄筆譚』与清代文人、中国・聊城大学、招待講演、2012年6月7日。

(3) 夫馬進、18世紀日・韓・中の文化交流と国際関係、韓国・済州島、第7回済州フォーラム、2012年6月1日。

(4) 夫馬進、洪大容『乾浄筆譚』とその改変、韓国・檀国大学、東アジア三国新しい未来の可能性、2012年3月17日。

〔図書〕(計1件)

夫馬進、朝鮮燕行使与朝鮮通信使：使節視野中的中国・日本、中国、上海古籍出版社、2010年、pp.1-370。

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：

発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：  
〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

夫馬 進 (FUMA SUSUMU)  
京都大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：10093303